

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
令和3年度研究開発実施報告書

「科学技術イノベーション政策のための科学」  
研究開発プログラム  
「研究分野の多様性を踏まえた研究公正規範の  
明確化と共有」

中村 征樹  
(大阪大学全学教育推進機構 教授)

## 目次

1. 研究開発プロジェクト名 .....	2
2. 研究開発実施の具体的内容 .....	2
2 - 1. 研究開発目標 .....	2
2 - 2. 実施内容・結果 .....	2
2 - 3. 会議等の活動 .....	6
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 .....	7
4. 研究開発実施体制 .....	7
5. 研究開発実施者 .....	8
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など .....	9
6 - 1. シンポジウム等 .....	9
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など .....	9
6 - 3. 論文発表 .....	9
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） .....	9
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等 .....	9
6 - 6. 知財出願 .....	10

## 1. 研究開発プロジェクト名

研究分野の多様性を踏まえた研究公正規範の明確化と共有

## 2. 研究開発実施の具体的内容

### 2 - 1. 研究開発目標

- ① 研究公正に関連して各研究分野の国内の学協会が作成している執筆要領・関連規定等を収集し、明文化された研究公正規範文書を研究分野ごとに系統的に整理・提示する。
- ② 国内の学会誌について、学会誌の編集委員等の経験者を対象に質問紙調査およびインタビュー調査を行い、具体的にどのような行為を二重投稿等とみなすか等の具体的な研究公正規範の基準について、研究分野ごとに明示化する。
- ③ 国内の学協会における研究公正規範を国際的な動向と比較できるよう、海外の学術誌について、各研究分野の代表的な学術誌や学会の関連規定を収集し、明文化された研究公正規範を研究分野ごとに系統的に整理・提示する。
- ④ 上記で得られた知見を整理し、研究分野ごとに、本研究で明らかになった当該分野の研究公正規範等を記載したリーフレットを研究倫理教育・研修用の教材として作成・開発する。
- ⑤ 国内の大学・研究機関等で実施される研究倫理教育において、④で開発した教材を活用することで、研究分野の多様性を考慮に入れた研究倫理教育が行われるようになる。
- ⑥ 国内の学協会において、研究分野の特性を踏まえた具体的なルールやガイドライン等の作成に向けた動きが促進される。

### 2 - 2. 実施内容・結果

#### (1) スケジュール

実施項目	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度	令和6 (2024) 年度
1-1. 学協会の執筆要領・関連文書の分析	←→			
1-2. 学会誌編集者を対象とした質問紙調査		←→		
1-3. 学会誌編集者を対象としたインタビュー調査		←→	←→	
1-4. 調査結果の整理・分析			←→	←→
2-1. 既存の教材の分析	←→		↑	
2-2. 研究不正事例等の分析	←→		↓	
2-3. 教材の作成			←→	←→

## (2) 各実施内容

### (目標1)

研究公正規範の明確化にむけた基盤的な情報収集を実施し、研究の実施方針を策定する。

#### 実施項目1-1：学協会の執筆要領・関連文書の分析

##### 実施内容

研究公正に関連して、国内外の代表的な学協会が作成している執筆要領・関連規定等を収集し、整理・分析するための予備的な調査を行った。本プロジェクトでは、最終的に日本学術会議協力学術研究団体の分野区分である全30分野について研究公正規范文書を収集・整理することを目指す。初年度はその予備調査として、各分野の会員数上位3団体について、当該団体がウェブで公開している二重投稿、オーサーシップに関する関連規定等の調査・収集を行った。予備調査の結果を踏まえ、関連規程等の収集方針について再検討し、全30分野（各分野について会員数上位10団体）の学協会の二重投稿、オーサーシップに関する関連文書の収集に着手した。

期間：令和3年11月～令和4年3月

対象：学協会

#### 実施項目1-2：学会誌編集者を対象とした質問紙調査

##### 実施内容

国内の学会誌について、学会誌の編集委員等の経験者を対象にした質問紙調査を行うにあたり、研究項目①-1の予備調査の結果や、①-3の結果等も踏まえながら、質問紙調査の実施方針や具体的な質問項目等について検討を行った。

期間：令和3年10月～令和4年3月

対象：国内学会誌編集委員経験者

#### 実施項目1-3：学会誌編集者を対象としたインタビュー調査

##### 実施内容

国内の学会誌について、学会誌の編集委員等の経験者を対象にしたインタビュー調査を行うにあたり、インタビュー調査の実施方針や具体的な質問項目等について検討するとともに、予備調査として学会誌編集委員経験者（心理学分野）を対象に、二重投稿やオーサーシップに関する具体的な判断基準に関するインタビュー調査を実施した。

期間：令和3年10月～令和4年3月

対象：国内学会誌編集委員経験者

### (目標2)

多様な研究分野の代表的な研究不正事例、問題事例を収集する。

#### 実施項目2-1：既存の教材の分析

##### 実施内容

国内の代表的な研究公正教材について、取り扱われている事例がどの研究分野に関係するものかなどの観点から、整理・分析を行った。また、研究

分野に即した国内外の研究公正教材について、そこで提示されている研究公正規範や取り上げられている事例に注目して整理・分析を行った。初年度は国内外の研究公正教材の体系的な収集を行ったほか、研究公正教材で提示されているケーススタディ等の事例について、研究分野に着目して情報の整理・分析を行った。

期間：令和3年10月～令和4年3月

対象：研究公正教材

#### 実施項目2-2：研究不正事例等の分析

##### 実施内容

二重投稿等、本研究プロジェクトに関わってこれまで問題になった事例について幅広く調査を行い、研究分野との関連で整理・分析を行うための予備調査を行った。初年度は、①「文部科学省の予算の配分又は措置により行われる研究活動において不正行為が認定された事案（一覧）」に記載されている令和2年度までの事案68件、および研究プロジェクト開始時に掲載されていた令和3年度の2件の合計70件、および②論文撤回事例の代表的なデータベースである「Retraction Watch」に掲載されている国内事案について、研究分野の観点から情報の収集・整理を行った。

期間：令和3年10月～令和4年3月

対象：研究不正事例等

### (3) 成果

#### (目標1)

研究公正規範の明確化にむけた基盤的な情報収集を実施し、研究の実施方針を策定する。

#### 実施項目1-1：学協会の執筆要領・関連文書の分析

##### 成果

国内の学協会の動向に関して、予備調査として、日本学術会議協力学術研究団体の分野区分である全30分野を対象に、各分野の会員数上位3団体について、当該団体がウェブで公開している二重投稿、オーサーシップに関する関連規定等の調査・収集を行った。その結果を踏まえ、各分野について会員数10位までの学協会について調査・収集の対応とすることや、複数の分野にまたがる学協会の取り扱い等について調査方針を決定するとともに、検索範囲や学会誌の定義等について調査方法を決定した。それにもとづき、翌年度に実施を予定していた本調査に着手し、3月末時点でおおむね45%の対象学協会について二重投稿、オーサーシップの関連規程等を収集した。

#### 実施項目1-2：学会誌編集者を対象とした質問紙調査

##### 成果

質問紙調査の具体的な実施方法について検討を行った。特に、質問項目の作成にあたってポイントとなる二重投稿やオーサーシップに関連する項目については、実施項目1-1の成果を元にした検討作業に着手しており、令和4

年度において実施する質問紙調査（予備調査）に向けた方針を立てることができた。

#### 実施項目1-3：学会誌編集者を対象としたインタビュー調査

##### 成果

予備調査として、学会誌編集委員経験者（心理学分野）を対象に、二重投稿やオーサーシップに関する具体的な判断基準に関するインタビュー調査を実施し、調査実施時の論点やテーマについて検討を行った。この結果を踏まえ、令和4年度で実施するインタビュー調査に向けた方針を検討した。

#### （目標2）

多様な研究分野の代表的な研究不正事例、問題事例を収集する。

#### 実施項目2-1：既存の教材の分析

##### 成果

国内外の研究公正教材についての情報を収集し、それらの教材を収集した。それらの教材の中でも、①100件のケーススタディが掲載されている「Responsible Conduct of Research (3rd ed.), A. E. Shamoo, D. B. Resnik, Oxford University Press (2015)」と、②科学者が研究活動の中で直面するジレンマを学習型教材として提供している「Dilemma Game (Erasmus University Rotterdam)」(掲載事例：99件(調査時点))において、掲載事例を研究分野の観点から整理を行った。この結果より、令和4年度において実施する研究公正教材の調査対象とする研究分野の方針を得ることができた。

#### 実施項目2-2：研究不正事例等の分析

##### 成果

研究不正事例調査として、①「文部科学省の予算の配分又は措置により行われる研究活動において不正行為が認定された事案（一覧）」に記載されている70事案、および、②「Retraction Watch」の掲載事案について、研究分野との関連で情報の整理を実施した。特に②では、二重投稿と不適切なオーサーシップに関連して発生した国内事案に絞った予備的な情報の収集(349事案)を行った。これらの予備調査の結果をもとに、研究分野間の共通性と違いや、データベースを活用した調査にむけた方針の検討を行った。

#### （4）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

プロジェクトの達成目標に対して、順調に計画を進めている。とりわけ本プロジェクトを進めるうえで基盤的な情報となる学協会の研究公正関連規程等の収集については、翌年度に予定していた調査を先取りして実施するなど、当初の予定より進んでおり、翌年度の早い時期に調査を終了する予定である。学会誌編集委員経験者を対象とした質問紙調査・インタビュー調査についても、令和3年度に実施した予備的な検討結果と、学協会の研究公正関連規程等の調査結果の分析結果を踏まえ、令和4年度の早い時期に実施方針を確定する予定である。

また、研究不正事例・問題事例の整理・分析についても、予定通りに研究を進めており、令和4年度においても引き続き検討を行う。

## 2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2021年10月26日	文部科学省研究公正推進室打ち合わせ	オンライン (Zoom)	研究計画について文部科学省科学技術・学術政策局研究環境課研究公正推進室(以下、「文部科学省研究公正推進室」とする)と情報共有・意見交換を行った。
2021年11月24日	文部科学省研究公正推進室打ち合わせ	オンライン (Zoom)	調査の実施方法について文部科学省研究公正推進室と情報共有・意見交換を行った。
2021年12月17日	RISTEX 委託調査打ち合わせ	オンライン (Zoom)	RISTEX委託調査「学際・超学際研究における研究公正に関する調査」との情報共有・意見交換を行った。
2021年12月20日	第1回全体ミーティング	オンライン (Zoom)	令和3年度における実施項目の確認、質疑等を行った。
2022年1月27日	第2回全体ミーティング	オンライン (Zoom)	令和3年度における実施項目の進捗報告、今後の進め方についての相談等を行った。
2022年3月4日	第3回全体ミーティング	オンライン (Zoom)	令和3年度における実施項目の進捗報告、インタビュー予備調査の調整等を行った。
2022年3月21日	教育・研修教材開発グループミーティング	大阪大学豊中キャンパス	双方向型研究倫理教育の効果的な進め方について情報共有・意見交換を行った。

### 3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

令和3年度において、文部科学省研究公正推進室と2度にわたって打ち合わせを行い、研究プロジェクトの実施方針について意見交換を行うとともに、今後、調査の実施にあたって調査項目等についてすり合わせを行うことを確認するなど、文部科学省の研究公正に関する施策と密接に連携しながら研究を進めてきた。

また、RISTEXによる委託調査「学際・超学際研究における研究公正に関する調査」とも、情報共有・意見交換を行いながら調査を進めるなど、さまざまな形で関連する取り組みと協力・連携を進めてきた。令和4年度以降も引き続き、関連する組織やプロジェクト等との協力・連携を継続していく予定である。

### 4. 研究開発実施体制

#### (1) 研究公正規範検討グループ

##### ①中村征樹（大阪大学全学教育推進機構、教授）（グループリーダー）

三浦麻子（大阪大学大学院人間科学研究科、教授）

東島仁（千葉大学大学院国際学術研究院、准教授）

##### ②実施項目1：研究公正規範の明確化

実施項目1-1：学協会の執筆要領・関連文書の分析

実施項目1-2：学会誌編集者を対象とした質問紙調査

実施項目1-3：学会誌編集者を対象としたインタビュー調査

#### (2) 教育・研修教材開発グループ

##### ①市田秀樹（大阪府立大学高等教育研究推進機構、准教授）（グループリーダー）

中村征樹（大阪大学全学教育推進機構、教授）

東島仁（千葉大学大学院国際学術研究院、准教授）

##### ②実施項目2：教育・研修教材の開発

実施項目2-1：既存の教材の分析

実施項目2-2：研究不正事例等の分析



## 5. 研究開発実施者

### 研究公正規範検討グループ（リーダー氏名：中村 征樹）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
中村 征樹	ナカムラ マサキ	大阪大学	全学教育推進機構	教授
三浦 麻子	ミウラ アサコ	大阪大学	大学院人間科学研究科	教授
東島 仁	ヒガシジマ ジン	千葉大学	大学院国際学術研究院	准教授
中村 文彦	ナカムラ フミヒコ	大阪大学	全学教育推進機構	特任研究員
渡邊 友美	ワタナベ トモミ	千葉大学	大学院国際学術研究院	特任研究員
山根 承子	ヤマネ ショウコ	株式会社パパラカ研究所		代表取締役 CEO

### 教育・研修教材開発グループ（リーダー氏名：市田 秀樹）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
市田 秀樹	イチダ ヒデキ	大阪府立大学	高等教育研究推進機構	准教授
中村 征樹	ナカムラ マサキ	大阪大学	全学教育推進機構	教授
東島 仁	ヒガシジマ ジン	千葉大学	大学院国際学術研究院	准教授
中村 文彦	ナカムラ フミヒコ	大阪大学	全学教育推進機構	特任研究員

## 6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

### 6-1. シンポジウム等

なし

### 6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD  
なし

(2) ウェブメディアの開設・運営  
サイト名：研究分野の多様性を踏まえた研究公正規範の明確化と共有  
URL：<https://research-integrity.info/2021ristex/>  
開設年月日：2022年2月15日

(3) 学会（6-4. 参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等  
・「第1回共進化セミナー—研究公正とガバナンスのありかたを問う—」社会技術研究  
開発センター「科学技術イノベーション政策のための科学」研究開発プログラム主  
催、2022年1月24日、Zoomウェビナー開催、プロジェクトからの報告・構想発表

### 6-3. 論文発表

(1) 査読付き（  0  件）  
●国内誌（  0  件）  
  
●国際誌（  0  件）

(2) 査読なし（  0  件）

### 6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

(1) 招待講演（国内会議  0  件、国際会議  0  件）

(2) 口頭発表（国内会議  0  件、国際会議  0  件）

(3) ポスター発表（国内会議  0  件、国際会議  0  件）

### 6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 ( 0 件)

(2) 受賞 ( 0 件)

(3) その他 ( 0 件)

#### 6-6. 知財出願

(1) 国内出願 ( 0 件)

(2) 海外出願 ( 0 件)